



港南防災ネットワーク便り

2019年1月号

❗ 港区総合防災訓練 2018（港南会場）のご報告 -参加者数2,851人-

今回も三千人近い地域の皆さんにご参加いただき、ありがとうございました。避難所の設営と運営、並びに避難所生活を円滑にするために、防災ネットワークは今後も引き続き皆様のご協力を得ながら、更に努力してまいります。🐢
今回の訓練に参加できなかった方は次回はずいぶんお待ちしています。🍌
今年の干支イノシシのように、皆で防災の取組みに突き進んでまいりましょう。ご協力いただきました機関や関係団体の皆様、本当にありがとうございました。

港南防災ネットワーク会長 飯塚 則男



❗ 災害に備える

港南地域のほとんどの建物は中高層住宅です。この様な建物は耐震性が高いため地震に強いといわれていますが、地震動による給水・排水設備の損傷、エレベーターの停止、高層階住民の孤立など心配される点もたくさんあります。

首都直下地震の切迫性は確実に高まっている今、居住者は自らの住宅の特徴をよく知り、各自で備えてゆくことが大切になります。

今年の便りでは港区総合防災訓練の訓練項目と併せながら「災害に備える」必要性をいま一度、特集していきます。

防災ワンポイント

港区では災害に対する備えや災害時における行動などについてまとめた防災マニュアル「大震災に備えて」を作成し防災課窓口、各総合支所協働推進課窓口で配布しています。

区のHPからもダウンロードできます。

<https://www.city.minato.tokyo.jp/chiikibusai/daisinnsainisonaete.html>



災害に備える（トイレ）

災害直後 トイレに水を流すのは NG！

- 地震により排水管が破損している可能性があります。破損しているのに下水を流してしまうと破損箇所や低層階に汚水が溢れて建物自体に悪臭が蔓延することにもなりかねません。

大きな地震のあとには管理者などから「下水を流して大丈夫です」と指示があるまでトイレの水は流さないでください。



マンホールトイレ組立訓練
(総合防災訓練時)

- 災害時の共有トイレとして設置されるのが「マンホールトイレ」や「仮設トイレ」です。総合防災訓練ではマンホールトイレの組立訓練を行い備えています。

☞ 「マンホールトイレ」

下水道に直結したマンホールの蓋(ふた)を開け簡易便座を置いて利用する非常用トイレです。便座の周りはテントで個室を作るのでプライバシーは守られます。ただし、液状化等で下水道が壊れてしまうと使用できません。

- 共有トイレまで行って長時間ならぶことを想定すると「簡易トイレ」の準備や「携帯トイレ」の備蓄をお勧めします。



☞ 「簡易トイレ」

室内に設置できる持ち運び可能な、便座のある小型のトイレです。紙製とプラスチック製のものがあります。し尿は凝固剤を用いて処理します。

☞ 「携帯トイレ」 備えておこう

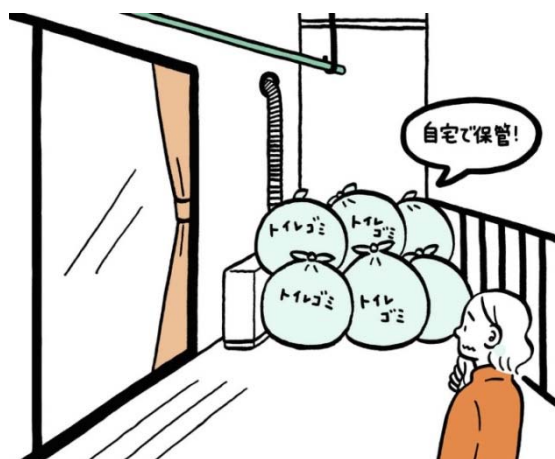
便座は無く凝固剤とポリ袋がセットになっています。洋式便器につけて使用できるものや単独でそのまま使用できるものがあります。コンパクトで持ち運びしやすく安価なため大量に用意しておくことも可能です。



緊急時にトイレの備えがない場合などは、黒ビニール袋、ガムテープ、凝固剤の代用となるペットシートやネコ砂があれば、自作もできます。

* 目安は最低1週間分（1日5回分×家族人数×7日間）
<例> 5回/1人×4人×7日間=140回分
家族4人なら140回分のトイレの備えが必要です。

* 備えておくと役に立つトイレ用品
トイレットペーパー や 生理用品（プラス1か月分）
トイレゴミを保管する45ℓ黒ビニール袋、ゴミ箱や
オムツボックス



記事編集 発行
港南防災ネットワーク
会長 飯塚 則男